

# 日韓共同理工系学部留学生プログラム報告(2014年4月～2015年3月)

副島 健治

## 1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を、留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され10年間の第1次事業を経て、2009年の募集から新たな第2次事業が行われている。富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生（以下、「日韓生」とする）をのべ9人受け入れた。

## 2 2014年度の本事業による富山大学への学生配置について

富山大学への2014年度の日韓生の新たな配置はなかった。

## 3 富山大学配置の在籍日韓生

これまでに9人の日韓生を受け入れたが、第一次事業第10期生2人（理学部1人，工学部1人）が2014年3月に卒業し、本プログラムの学部在籍者は本学にはいなくなった。

## 4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

### 4.1 構成員

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れのための準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」（以下、「日韓WG」とする）が2001年4月に立ち上げられ、メンバーの交代を経ながら現在に至っている。

2014年度のメンバーは倉光英樹（理学部，日韓WG座長），柿崎充（理学部），鈴木賢治（工学部），バハウ・サイモン・ピーター（国際交流センター），副島健治（国際交流センター），そして事務から学生支援グループ留学支援チームのスタッフを加えて構成されている。

### 4.2 日韓WGのミーティング

2014年度は以下のように、日韓WGのミーティングが2回持たれ、日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の本学受入れ等について話し合われた。ミーティングにはWGのメンバーの他、2014年度の「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」参加者も加わった。

○第44回（2014年度第1回）日韓WGミーティング

日時・場所：2014年7月18日（金）8:45～9:50 学生会館2階 多目的利用室

○第45回（2014年度第2回）日韓WGミーティング

日時・場所：2015年2月20日（火）14:30～16:00 学生会館2階 学生支援課事務室（旧留学支援チーム事務室）

### 4.3 その他の活動

韓国ソウルで開催される「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」（後述）への参加教職員と日韓WGのメンバーの一部および韓国人ボランティア学生（交換留学生等）が集まり、打ち合わせを行った。

日時・場所：2014年6月28日（月）16:30 場所：学生会館2階 多目的室

## 5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が、2014年度は下記の日時・場所で開催された。本学からはWGメンバーの倉光英樹（理学部）と飴井賢治（工学部）が参加した。

日時：2014年6月27日（金）13:00～17:00

場所：北海道大学学術交流会館

## 6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、下記の日時・場所で日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア（以下、「フェア」とする。）が開催された。このフェアには、日本の29の国立大学が参加した（資料展示のみの4大学を含む）。

本学からは黒澤信幸（理工学研究部工学系）、柿崎充（理工学研究部理学系）、武田けい（工学部総務課）の3人の教職員が参加し、現地雇用の通訳に加え、韓国入学生5人（交換留学生）もボランティアとして手伝った。

日時：2014年8月31日（日）9:30～17:00

場所：大韓民国国立国際教育院（韓国 Seoul 特別市鐘路区東崇洞181）

- ・説明会 … 国立国際教育院1階 大講堂
- ・ブース会場 … 同 4階講義室

午前中、全体に対する説明および講演等が講堂で行われた後、午後、本事業の採用候補者を対象として各参加大学のブースにおいて個別説明が行われた。



本学ブースの様子

本学のブースへは20人の日韓生候補生の訪問があり、その他数名に資料配布を行った。

## 7 おわりに

本事業は1999年より10年計画で開始され、現在も第2次事業として継続されている。日韓生を受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が進学希望大学として選ばれるように努力しなければならない、しかもそのためにできることはそれほど多くはない。実際には、前述のフェアがその努力を傾注すべきほぼ唯一の機会となっている。そして日韓生候補生が進学を希望する日本の大学は、ネームバリューのある大学に集中しがちで、日韓生の配置はおのずとそのような大学に偏る傾向があるというのが現状である。

2014年度のフェアに本学としても参加し、実際のフェア参加の教職員と日韓WGが主体となり、日韓生の配置が得られるようでき得る努力をした。その結果、12月に文部科学省から本学へ2人の配置の照会があり、その受入れ準備を進めていたものの、実際には事情により結果的に配置はなかった。

結果的に配置ゼロという現実において、努力の成果が上がらなかったことになり、本学の今後のフェアへの参加の是非については、費用対効果の観点からも、その眼差しはさらに厳しくなるのではないだろうか。大学のグローバル化、国際化が謳われる昨今において、これは単に理学部と工学部の問題としてだけでなく、富山大学の全学的な意思として、2015年度以降の本事業への本学の参加の是非の舵取りをどのようにするか大いに議論する必要があると思われる。